

浅間高原に舞う高山蝶と生息環境の保全

発表者：孀恋村高山蝶を守る会 会長 宮崎光男

湯の丸高原に生息している群馬県指定天然記念物ミヤマシロチョウ、ミヤマモンキチョウ、ベニヒカゲを始めとする地域内に棲み絶滅が危惧される蝶類の保護・保全活動をしている。また、その食樹であるメギを含め自然環境の維持と保全活動にも取り組んでいる。

この保護・保全活動を通して、多様性のある自然を次世代に継承できるように努めている。

活動内容

- ① 高山蝶の保護活動として、定期的なパトロール等を行い監視活動する。
- ② 生息状況・生態調査を随時行い、実態把握に努める。
- ③ 保全活動として、食樹メギ等の生息環境の保全・整備活動をする。
- ④ 高山蝶や食樹等の保護・保全に関する提言や啓発のための広報活動を行う。
- ⑤ 高山蝶や食樹等の保護・保全に関わる調査・研究と関係団体との連携した活動をする。

浅間・湯ノ丸高原に舞う高山蝶・ミヤマシロチョウ

1. ミヤマシロチョウの生息地

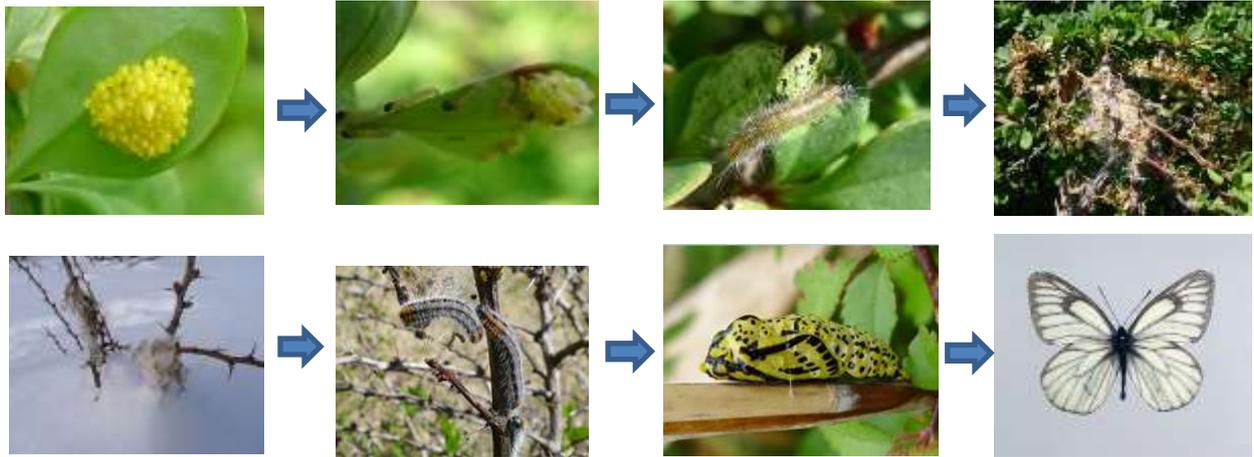


ミヤマシロチョウは、絶滅のおそれが高い蝶の一種である。環境庁のレッドデータブックにおいて「絶滅危惧Ⅰ類」に指定されている。群馬・長野・山梨の各県では天然記念物に指定されている。かつては本州中部の山地帯に生息していたが、各地で減少し、現在では一部の地域でしか見ることができなくなっている。残された浅間高原の湯ノ丸でも生息地が狭くなり個体数も極端に少なくなり、守るための取り組みが急務になっている。

○生息の場は、標高 1400m～2000m の山地で、溪流沿い・稜線・牧場などの明るい林である。標高の高い人里離れた場所に棲んでいるのにもかかわらず、近年になって生息域が急速に失われてきている。広域に渡って良好な生息環境がないと生きていくことができないため、豊かな自然環境の指針となりうるものである。

2. ミヤマシロチョウの形態と生態

食樹であるメギの木の葉裏に雌は、80～150個ほどの卵をまとめて産み付ける。卵は、15～20日間ほどでふ化し、幼虫は、口から糸を吐いて葉で巣を作り、集団でメギの葉を食べて成長する。3齢になった幼虫は9月下旬から10月頃になるとメギの葉を食べることを止め、共同の巣の中で冬を越す。翌春、5月上旬になるとメギの葉が茂り始め、幼虫は再び食べ始める。共同で生活している巣は、大きくなり、葉を食べていないときにはその巣の中で過ごす。そして終齢の5齢になると、食樹や付



近の植物に移動して蛹になる。20日間ほどで羽化して成虫になる。成虫は、7月から8月上旬に見ることができる。飛び方はゆるやかで舞うように飛び交い綺麗である。雌は各種の花で吸蜜していることが多く、雄は飛翔しながら雌を探す。成虫の寿命は、10日ほどである。

3. 自然環境及び蝶の保全への取り組み

① 生息環境の整備 (伐採・刈払い作業 現状変更申請)



かつては、高山に行けば普通に見られ、舞っていたミヤマシロチョウは、わずかな数しか見られなくなり、現在生息する区域では危機的状況になっている。カラマツの林に覆われてきたり、笹が繁茂したりして環境が悪化してきている。草原に樹木がまばらに生えるような明るい環境がメギの木の成育にも適し、吸蜜植物も豊かである。笹に覆われてくると、草本植物が減り、吸蜜植物が少なくなってくる。パトロールを通し、生育環境を確認

し、適正な環境整備に心がけている。また、高木を伐採することにより、生息域を結ぶ通路を確保し、小さく孤立している区域を広げ、繋げることにより、良好な環境を保ち、維持していく取り組みもしている。

② 個体数の調査 (越冬巣数調査)・啓発のための広報活動

2016年 ミヤマシロチョウ越冬巣数 記録

2012年～2016年

碓氷村高山蝶を守る会

調査区	2012 越冬 巣数	2013 越冬 巣数	2014 越冬 巣数	2015 越冬 巣数	2016 越冬 巣数	調査 サイズ (大・中・小)	備考
4-0-1	3						
4-0-2						中 120-75-90	
4-0-3		10				中 120-90-90	
4-0-4		3				小 90-70-90	
4-0-5						小 80-70-90	
4-0-6	3	5				中 100-120-90	
4-0-7		3				小 100-70-90	
4-0-8	8	12			1	中 130-130-130	2015年度に於し、越冬
4-0-9	2	2				中 100-90-75	
4-1-0		1				小 80-50-55	

秋から冬に越冬巣数を調べることによって、生息状況の変化を把握し、保全対策の基礎資料の蓄積に努めている。また、多くの方の理解と協力を得るために観察会などを行ったり、広報パンフレットを配布したりしている。

4. まとめ

今年度はパトロールを15回行ったり、他の団体と交流会をもち共同研修会・パトロールなどを実施したりした。また、広く一般の方

に活動を知ってもらうための観察会を行い、蝶の舞う姿を見る機会をつくった。今後も保全活動に取り組み、いつまでも高山蝶が飛ぶ姿が見られるようにしていきたい。